

砂防ボランティア活動等功労者表彰を岡村億見氏が受賞!

主な功績

- ・平成14年5月 「鳥取県砂防ボランティア協会」入会
 - ・平成22年5月 「鳥取県砂防ボランティア協会」会長就任
 - ・平成24年6月 「鳥取県土木防災・砂防ボランティア協会」初代会長就任
 - ・平成30年5月 会長退任
- 8年間の会長をはじめ、長年にわたる協会活動を通じて、協会の発展に献身的に尽力されました。

この度、令和2年度表彰者として岡村億見氏が受賞され、7月2日に県土整備部長より表彰状が授与されました。今回はコロナウイルスの影響により、表彰式が行われる全国のつどいが中止になったため、県土整備部長室で表彰式を行いました。

砂防ボランティア全国連絡協議会は、砂防ボランティア活動及び砂防ボランティア団体の運営発展に関して顕著な功労があり、他の模範として推奨に値すると認められる個人を平成25年度から表彰しています。



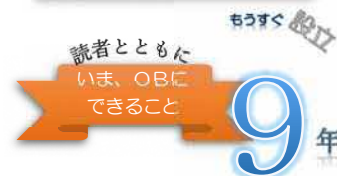
表彰状

総会(役員改選)

鳥取県土木防災・砂防ボランティア協会 R2~R3役員

役職	氏名	備考
会長	播磨 振作	
副会長	西村 正教	
幹事	渡邊 康二	東部幹事
幹事	水野 彰	中部幹事(会計を兼務)
幹事	桑村 卓也	西部幹事
会計	水野 彰	中部幹事を兼務

↑6月に行われた当協会総会(書面表決)で上記のとおり、新役員が選出されました。任期は2年となります。



5月21日(金)

2021年(令和3年)

発行

鳥取県土木防災・砂防ボランティア協会

事務局:

〒680-8570

鳥取県技術企画課内

鳥取市東町1丁目220

電話(0857)26-7368



急傾斜地点検の様子



↑鳥取県土整備事務所
該当ページにアクセスできます

令和2年11月に鳥取県土整備事務所管内で行われました急傾斜地施設26箇所の施設点検に5名の方に参加していただきました。現役職員2名とボランティア会員1名で班を構成し、現役職員への知識伝達となる貴重な機会となりました。当日の活動状況の様子は鳥取県土整備事務所ホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

砂防関係施設点検

「斜面判定士」に登録しませんか?

土砂災害の危険箇所を日常または災害時に巡視・点検をするためには、一定の土砂災害に関する知識と経験を有することが重要です。概ね砂防関係5年以上の経験者で、十分な技術力を有すると判断される方々を斜面判定士として認定・登録するものであり、現在、斜面判定士は鳥取県で37名(令和3年2月29日現在)が登録されています。

(お問合せ先) 鳥取県治山砂防課 電話 0857-26-7819



11月5日 若桜町つく米



11月25日 三朝町三徳

出前裏山診断

令和2年11月に若桜町・三朝町にて行われた出前裏山診断に延べ4名の方に参加していただきました。地域住民へ診断のとりまとめを報告し、防災に対する意識向上に努めました。

編集後記・・・

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、堤防点検をはじめとした対面を伴う各種活動への参加が中止となり、活動が減少した1年となってしまいました。しかし、コロナ禍とはいえ、自然災害への備えを引き続き維持していく必要があります。特にこのコロナ禍において人との「つながり」に改めて注目が集まるようになりました。本会員の皆様には県職員OBという長所を活かしていただき、ぜひ会員同士、また現役職員とのつながりを引き続き大事にしていだければと思います。コロナ禍における活動についても、皆さんからご意見を承りつつ発展させていきたいと思っておりますので、今後とも協会へのご協力よろしくお願いいたします。

令和2年度 主な県土整備部事業の紹介

道路事業

県内では、高速道路ネットワークの整備促進のため、山陰近畿自動車道(岩美道路)や北条湯原道路(倉吉道路、倉吉関金道路)、江府三次道路(江府道路)などで地域高規格道路の整備を進めています。

また、交通利便性や安全性の向上を目指したバイパス整備や改良事業を実施しています。

「都市計画道路 葭津和田町線」は令和2年2月16日に全線(総延長2.3km)を迎え、平井知事や伊木米子市長らが出席して開通式が開かれました。

15年にわたる事業期間の末、弓ヶ浜半島の日本海側と中海側を結び、産業及び観光の活性化に大きく寄与することが期待されます。



開通式でのテープカット



渡り初め

全線開通を知らせるパンフレット

砂防事業



みどり下谷川砂防えん堤



大立下谷川砂防えん堤

県内には土砂災害の対策が急がれる危険箇所が約3千箇所あり、地域の安全・安心を確保するために砂防えん堤や急傾斜地崩壊対策施設の整備などのハード対策を進めています。

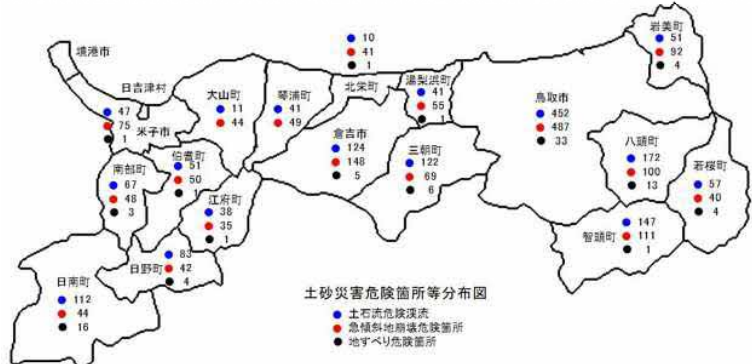
令和2年度には、倉吉市みどり町のみどり下谷川や、倉吉市大立の大立下谷川で砂防えん堤が完成し、下流域での土砂災害の軽減が期待されます。

土砂災害危険箇所整備状況

R3.3末現在

項目	危険箇所数※1	整備数	整備率(%)
土石流危険渓流	1,626	502	30.9
急傾斜地崩壊危険箇所	1,352	310	22.9
地すべり危険箇所	94	19	20.2
合計	3,072	831	27.1

※ハード事業の実施対象となる土砂災害危険箇所



土砂災害危険箇所等分布図

災害復旧事業

近年、気候変動の影響により自然災害が頻発化・激甚化する傾向にあり、平成30年7月豪雨や令和元年東日本台風など、毎年のように全国各地で被害が発生しています。

令和2年も例外ではなく、熊本県を中心に河川の氾濫等により極めて甚大な被害をもたらした7月豪雨などがありました。

鳥取県内では公共土木施設の被害件数、金額ともに例年に比べて少ない年でしたが、9月には鳥取市佐治町で局所的豪雨により土石流が発生し、河道の埋そくや国道482号の道路流失被害がありました。過去の経験を活かし、現場では発災後速やかに応急工事に着手し、河道の確保と通行止めの解消に取り組みました。

また、災害査定では若手職員が中心となって説明し、災害に関する職員の技術力向上につながる査定でもありました。

今後、令和3年度中の完成を目指して各工事を進める予定です。



被災直後



応急工事後

令和2年9月豪雨 国道482号(佐治町尾際) 護岸崩壊、道路流失



被災直後



応急工事後

令和2年9月豪雨 北谷川(佐治町尾際) 土砂流出による河道埋塞

河川事業



改修が進む塩見川

千代川、天神川、日野川、斐伊川の一級河川では、戦後最大規模の洪水が発生しても安全に水が流れるよう改修を進めています。また、その他の中小河川についても、近年頻発する水害に備えるため改修を進めています。

鳥取市福部町を流れる塩見川では、過去の洪水により浸水被害が発生し、狭窄部の解消や支線の合流部改修などの対策を進め、平成29年には如来橋(旧国道9号)から福部町支所までの左岸側改修が進み、一定の効果が発揮されています。

す。今、右岸の築堤や、さらさらの流に、着手に、さらなる安全を図るべく計画しています。

県内の主な河川の整備状況(平成31年3月末時点)

水系	要改修延長(km)	改修済延長(km)	整備率(%)	左のうち直轄管理区間			県管理区間	
				要改修延長(km)	改修済延長(km)	整備率(%)	要改修延長(km)	改修済延長(km)
1級水系	819.7	404.6	49.4	128.5	96.5	75.1	691.2	308.1
千代川	387.5	209.5	54.1	37.7	27.5	72.9	349.8	182.0
天神川	144.3	66.7	46.2	35.2	32.2	91.5	109.1	34.5
日野川	237.1	93.5	39.4	24.3	15.4	63.4	212.8	78.1
斐伊川	50.8	34.9	68.7	31.3	21.4	68.4	19.5	13.5
2級水系	313.7	164.4	52.4	-	-	-	313.7	164.4
県合計	1133.4	569.0	50.2	128.5	96.5	75.1	1004.9	472.5